

教育事務所だより

平成 28 年 6 月 1 日発行

子どもの声でつくる〇〇

所長 奥村 忠孝

「たまめん」を知っていますか

先月、ある会で地域の青少年たちのグループによるすばらしい取組を聞くことができました。そのグループは青少年ボランティアグループ「たまめん」(たまゆメンバーズクラブ)です。玉湯町内の高校生や学生が所属し、玉湯公民館を拠点として「星空観察会」、小中学生の勉強をサポートする「夏休み学習会」などを主催したり、文化祭や公民館・子ども会活動のサポート活動などをしたりすることにより、自分たちも楽しみながら、地域に貢献して元気を与えています。その活動への評価は高く、玉湯公民館が全国優良公民館表彰で最優秀館に選ばれることに大きく寄与しました。

このたまめんの原動力は何でしょうか。私なりに次のように整理してみました。

- 活動自体の楽しさ
 - 自分たちが企画したことを実現できる楽しさ
 - 人との出会いやコミュニケーション
 - 他者に応援してもらえる、評価してもらえる、喜んでもらえること
 - 地域に貢献できた達成感と自らの成長の実感
- 大きく括ると「青少年たちの声(考え)でつくる地域貢献」であることが原動力となっていると感じました。

子どもの声でつくる算数授業

一方、島根県教育委員会は、今年度から授業の質向上プロジェクト事業の一環として、「算数の勉強が好きな子ども」を増やすために「子どもの声でつくる算数授業」づくりをめざしています。この「子どもの声でつくる算数授業」とは、次のような授業をイメージしたものです。

- 子どもが「算数の勉強は好きだ」「問題を解いてみたい」と思う授業
- お互いの考えを伝え合うなどして、それぞれの考えが深まっていく全員参加の授業
- 子どもが考えること、やりきることを楽しむ授業

そして、その授業づくりのために、次の二つの重点をあげました。

【重点1】 考えること、やりきることを楽しむことができるようにする！

【重点2】 児童生徒の活動に対して適切なフィードバックを行う！

(※これらの重点については、今年度の「各教科等の指導の重点」の算数・数学の章 P22～23 に詳述されています。)

子どもが「問題解決に向けて考えること、自分なりの考えを見いだすことを楽しむ」「お互いの考えを出し合うコミュニケーションを楽しむ」、教師が「子どもが考え表現したことを肯定的に評価し子どもに返す」といった点で、冒頭に紹介した「たまめん」の原動力となっていることと共通するものが多いと考えます。

子どもの声でつくる〇〇

この「子どもの声でつくる」という考えは、算数の授業に限ったものではありません。たまめんの例に見るように、子どもたちの主体的な学習・活動を引き出す上で効果的であり、多くの教科・活動に当てはまるものでしょう。「子どもの声でつくる社会科授業」「子どもの声でつくる道徳の時間」などと表現すると、子どもたちが問題解決に向けて主体的に調べたり、考えたり、話し合ったりしている姿が浮かんでくる気がします。

中でも「子どもの声でつくる総合的な学習の時間」は、とてもしっくりとくる気がします。探究的な学習である総合的な学習の時間においては、子どもが自分の興味関心に基づき、自分で課題を立て、主体的に追求し、思考し、判断する、まさに「子どもの声でつくる」ことが求められるからです。そして、学校行事の準備や練習、スキルの習得のみを目的とした活動などは、「子どもの声でつくる」という観点から見ると、総合的な学習の時間としては不適切であることが分かります。

すべての教育活動に当てはまるとは言えないでしょうが、学校における様々な教育活動を点検・見直しをするときの指標の一つとなるのではないかと考えています。

平成28年度 松江教育事務所 所掌分掌（学校教育，社会教育関係）

§ 学校教育スタッフ（Tel 0852-32-5772）

職	氏名	主な業務
指導主事 兼企画幹	遠山 茂樹	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育スタッフの企画・調整，渉外に関すること。 ○学校経営，教育課程の編成・実施に関すること。 ○教員の長期研修(中央，内留，海外，研修員)に関すること。 ○国語科教育，学校図書館活用教育に関すること。
指導主事	城市 則子	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関すること。 ○就学指導に関すること。 ○特別支援学校との連携に関すること。 ○音楽科教育，図画工作科教育，美術科教育，技術・家庭科教育に関すること。
指導主事	竹崎 葉子	<ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問指導に関すること。 ○人権・同和教育に関すること。 ○社会科教育，総合的な学習の時間，キャリア教育，ふるさと教育に関すること。 ○高校入試・奨学金に関すること。
指導主事	常松 浩	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数などきめ細かな指導に関すること。 ○特色ある学校づくりを支援する30人学級編成及び小中学校少人数学級編成（小学校第3学年以上）に関すること。 ○教職経験者研修（6，11年目）に関すること。 ○算数・数学科教育，体育・保健体育科教育，道徳教育，福祉教育，消費者教育，金銭・金融教育，伝統や文化に関する教育に関すること。
指導主事	原 啓一郎	<ul style="list-style-type: none"> ○国及び県の学力調査に関すること。 ○初任者研修に関すること。 ○教科用図書に関すること。 ○理科教育，生活科教育，環境教育，健康教育，食育，持続発展教育，へき地・複式教育，一貫・連携教育に関すること。
指導主事 兼生徒指導専任主事	津田 昌彦	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導に関すること。 ○しまねのふるまい推進事業に関すること。 ○外国語活動，外国語科教育，特別活動，教育相談，安全教育，国際理解教育，帰国・外国人児童生徒教育，情報・メディア教育，著作権に関すること。 ○スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーに関すること。

職	氏名	主務	主な業務
指導主事 (松江市派遣)	勝部 篤	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営や校内体制及び教育課程の編成・実施・評価に関すること。 ○指導の工夫・改善・評価に関すること。 ○県教育委員会の指導方針等の周知に関すること。 ○就学指導及び進路指導に関すること。 ○県教育委員会と市教育委員会との連携に関すること。 ○学校における教育上の課題及び実態把握に関すること。 ○学校教育その他教育問題にかかわる情報提供に関すること。
	濱岡 宏行	学力育成	
	道前 正	特別支援教育	
指導主事 (安来市派遣)	田中 修	学力育成	
	松尾優美子	特別支援教育	
	三保 貴資	生徒指導	

§ 社会教育スタッフ (TEL 0852-32-5775)

職	氏名	主な業務
社会教育主事 兼企画幹	浜崎 順子	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育スタッフの企画調整に関すること。 ○市教育委員会との連携，助言・指導に関すること。 ○学社連携・融合事業，ふるさと教育の推進に関すること。 ○青少年教育，成人教育，家庭教育及び社会教育関係団体に関すること。 ○社会人権・同和教育に関すること。 ○公民館，図書館等社会教育施設に関すること。 ○社会教育研修，研究調査に関すること。 ○社会教育主事及び社会教育職員に関すること。
社会教育主事 (松江市派遣)	橋津 健一	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭・学校・地域が連携協力した社会教育事業の推進。 ○島根の地域の特性を生かしたふるさと教育の推進。 ○地域社会における人づくり・地域づくりの推進。
	川合 昌宏	
	名目良明利	
社会教育主事 (安来市派遣)	仲西 貴志	
人権・同和教育 指導員	山根 正巳	<ul style="list-style-type: none"> ○同和地区児童生徒をはじめとする様々な支援を必要とする児童生徒に対する進路保障の取組に関すること。 ○教育事務所及び人権同和教育課が行う地域ぐるみの人権・同和教育の推進に関すること。 ○教育事務所管内における人権・同和教育に関わる業務の補助に関すること。

平成28年度 松江教育事務所管内 研究指定校等

※ ㊦；国指定 ㊧；県指定

事業・大会等名	実施校等
㊦人権教育指定校（㊧人権・同和教育研究指定校）	安来一中
㊦魅力ある学校づくり調査研究事業	安来市
㊦スーパー食育スクール事業	玉湯中
㊦算数授業改善推進校事業	古江小，社日小
㊦学校図書館活用教育研究事業	竹矢小，十神小，社日小
㊦小中学校の特別支援教育体制整備推進事業	松江一中，荒島小
中四国小学校体育研究大会（10/21）	母衣小
松江市教育研究大会（11/15）	恵曇小，佐太小，鹿島東小 鹿島中



平成28年度 松江教育事務所管内 継続型訪問指導実施校（15校）

実施校	中心となる教科等	実施校	中心となる教科等
中央小	算数	鹿島中	総合的な学習の時間
乃木小	授業づくり	東出雲中	キャリア教育
大庭小	算数	能義小	道徳（人権・同和教育）
恵曇小	算数	飯梨小	算数
鹿島東小	算数	井尻小	図書館活用教育（国語）
大谷小	図画工作	赤屋小	図書館活用教育（国語）
宍道小	算数，特別活動	安来一中	人権・同和教育
来待小	理科		



「勉強って何のためにするんですか？」

子どもたちから「先生、勉強って何のためにするんですか？」と尋ねられた経験はありますか？学習意欲の喚起を意図しつつ答えるとなると、なかなか難しい問題です。「将来役に立つから。」「人生を豊かにするため。」など、確かにそのとおりですが、子どもたちはもっと実感を伴う答えを求めているでしょう。そんなときには「総合的な学習の時間」で答えることが効果的です。日常生活や社会の中から自分で見つけた課題の解決に向かって、よりよい方法を追究していくとき、子どもたちは無意識に、あるいは意識的に、これまでに学んだ知識や身に付けた力を使っています。そのとき、教師がそれを気付かせてあげてください。「〇〇科で勉強したことが、ここで役立っているね！」このような一言が、教科の学習と子どもたちの生活をつなぎ、勉強することの意味に気付くきっかけになります。このことは、総合的な学習の時間の目標の一つでもあります。そういった視点から、各校の総合的な学習の時間を見直してみましょ。課題解決のために、子どもたちがこれまでに身に付けた力を駆使するような学習になっていますか？今年度の「教育事務所だより」では、総合的な学習の時間の充実のための情報を年間を通じて掲載していく予定です。ぜひご一読ください。